

## 「地域キャリア教育支援協議会設置促進事業」実施報告書

<b>1. 実施主体</b>	
本事業を受託し、協議会の核となる自治体、もしくは経済団体等名	山口県
<b>2. 現状及び課題</b>	
地域内でのキャリア教育に関する現状	<p>本県では、「夢や目標をもち、一人の社会人として自立できるよう、自分にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度、能力の育成」をねらいとし、取組の方向性として、「小・中・高等学校等を通じた系統的・計画的なキャリア教育の推進」「学校と家庭、地域、産業界等が連携したキャリア教育の推進」の二つを掲げて、キャリア教育に取り組んでいる。</p> <p><b>【具体的な取組内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 小・中・高等学校等を通じた系統的・計画的なキャリア教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校におけるキャリア教育全体計画や年間指導計画の作成及び見直し</li> <li>・キャリア教育実践事例集の作成・配付</li> <li>・志を抱かせる教育の推進（「1/2成人式」[小]、「立志式」[中]）</li> <li>・キャリアガイドブック「夢サポート」（中2生対象）の作成・配付</li> <li>・職場見学、職場体験、インターンシップ等の体験学習の充実</li> </ul> </li> <li>□ 学校と家庭、地域、産業界等との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャリア教育実践セミナー」の開催</li> <li>・「キャリア教育推進会議」の開催</li> <li>・「やまぐち教育応援団」制度の登録及び利活用促進</li> </ul> </li> </ul>
地域内でのキャリア教育に関する課題	<p><b>【本県のキャリア教育に関する課題】</b></p> <p>ア 職場体験、インターンシップ等で生徒のニーズに応じた事業所の確保が難しいことや、地域産業のよさや特性を理解させ、次世代の担い手を育成する必要があることから、学校と家庭、地域、産業界等との連携をさらに強化する必要がある。</p> <p>イ 子供の社会的自立に向け、あいさつなどの基本的な生活習慣やコミュニケーション能力等、児童生徒の基礎的・汎用的能力を、学校と家庭、地域、産業界等が連携して育成していく必要がある。</p> <p>ウ 社会的自立につながる効果的な体験活動が全ての学校において実施されるよう、体験活動を充実させていく必要がある。特に普通科高校におけるインターンシップの実施率に課題がある。</p> <p>エ 各学校でのキャリア教育に対する理解は進んできたが、教員の指導力の向上を図り、新たなキャリア教育の手法を周知するためには、研修を継続していく必要がある。</p>
<b>3. 委託内容に対する取組</b>	
<b>(1) 学校におけるキャリア教育に対する支援を目的として、地域の関係者が参画する会議体の設置及び運営</b>	
	<p><b>「キャリア教育推進会議」の設置・開催</b></p> <p>※ 本県のキャリア教育の基本方針や学校と家庭、地域、産業界等と連携を強化するため、有識者、経済団体、行政機関、学校関係者、PTA、県市町教育委員会の各関係者をメンバーとした「キャリア教育推進会議」を設置・開催する。</p>

# キャリア教育の推進



小・中・高等学校等を通じた系統的・計画的なキャリア教育の推進

キャリア教育実践事例集

インターンシップ  
推進事業

志を抱かせる教育の推進  
「1/2成人式」「立志式」

キャリアガイドブック  
「夢サポート」

キャリア教育  
実践セミナー

**キャリア教育推進会議**

学校と家庭・地域・産業界等との連携強化

やまぐち教育応援団の利活用促進

具体的取組

推進体制

地域の推進体制  
(図などを用いて  
地域全体の体制  
が分かるように  
示すこと)

	団体名	役割
協議会の構成	大学教授等の有識者	会長、副会長
	経済団体等関係者	委員
	1次産業関係者	委員
	行政機関関係者	委員
	学校関係者	委員
	PTA関係者	委員
	市町教育委員会関係者	委員
	県教育委員会関係者	委員
目標	<p>子供たち一人ひとりが夢や目標をもち、一人の社会人として自立できるよう、自分にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度、能力の育成を図るキャリア教育の推進に向け、本県におけるキャリア教育の推進方策等を検討するとともに、学校と家庭、地域、産業界等との連携協力体制の強化について協議する。</p>	

方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 本県独自のキャリア教育推進に向け、様々な立場から意見や情報を交換し、キャリア教育の基本方針を協議する。</li> <li>② 職場見学、職場体験、インターンシップ等の体験学習の充実に向け、学校と家庭、地域、産業界等との連携を強化する。</li> <li>③ キャリア教育に対して、県内の企業や諸団体の理解と協力を促進する。</li> <li>④ 教育における地域や産業界の役割を確認するとともに、学校の取組に対して地域や産業界の理解を促進する。</li> <li>⑤ 「やまぐち教育応援団」の有効な活用方策について協議する。</li> </ul>
事業の自立的かつ発展的な運営体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 大学教授等の有識者を会長とし、家庭、地域、産業界、行政、学校関係者等、様々な立場の委員で構成する。</li> <li>② 推進会議の協議内容を本県のキャリア教育推進事業に反映させるとともに、前年度の事業について、推進会議で点検・評価を行う。</li> <li>③ 推進会議の委員が「キャリア教育実践セミナー」に参加し、キャリア教育の基本方針の普及を図る。</li> </ul>
<b>(2)学校の教育活動に対して行われる、社会人講師の派遣や企業等が作成する一定の教育コンテンツの提供などによる支援の促進</b>	
<b>①支援を提案する支援提供者を開拓すること</b>	
<p>既存の「やまぐち教育応援団」制度（子供の教育活動を支援する県内の事業所・個人を対象とした認証・登録制度）を活用し、新たに次の取組を行って支援提供者を開拓する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Web上での情報提供を通じて制度の周知を図る。</li> <li>○県内の各経済団体（経営者協会、商工会議所等）に協力を依頼する。</li> <li>○各学校が独自で開拓した支援事業所に登録を依頼する。</li> </ul>	
<b>②支援に関する提案を学校に提示すること。</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○県教委が発行するWebニュース「ニューズレター」の中で、各学校の実践事例を紹介する。</li> <li>○「キャリア教育実践事例集」において、先進的な取組を紹介する。</li> </ul>	
<b>③個々の学校のニーズを把握し、そのニーズに応じて支援提供者による提案を紹介すること(マッチング)。</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリア教育推進会議やキャリア教育実践セミナー（8月に県内2か所で実施しているセミナーで学校の教員、保護者、地域や産業界から参加を募り、講演、事例発表、研究協議を行う。）において、学校関係者と地域・産業界の関係者が直接協議する機会を設ける。</li> <li>○「やまぐち教育応援団」のHPで、登録している事業所が実施できる支援の方法を具体的に紹介することで、学校が必要とする支援にマッチした支援提供事業所等を選択することを可能にする。</li> </ul>	
<b>(3)学校の教育活動として校外で実施される職場見学、職場体験活動及びインターンシップ等に対する支援の促進</b>	
<b>①インターンシップ等の実施場所として児童生徒の受入れを提案する支援提供者を開拓すること。</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○「キャリア教育推進会議」のメンバーに県内の各種経済団体の代表者、1次産業関係者を加え、学校や行政関係者と連携して支援提供者を開拓する。</li> <li>○地元の大学や企業が開催するキャリア教育に関する会議等において、事業所等に直接協力を依頼することにより、支援提供者を開拓する。</li> </ul>	
<b>②インターンシップ等に関する支援提供者の提案を学校に提示すること。</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○「やまぐち教育応援団」のHPで、登録している事業所の情報を、地域別、支援できる活動別に紹介する。</li> <li>○「キャリア教育推進会議」において、各種経済団体の代表者と各学校種の代表者、PTA団体の代表者が協議し、意見や情報の交換を行う。</li> </ul>	
<b>③個々の学校のニーズを把握し、そのニーズに応じて支援提供者による提案を紹介すること(マッチング)。</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○校長会の際に、学校長から各学校の取組等を直接聴取するとともに、「やまぐち教育応援団」制度についての周知を図る。</li> <li>○「1次産業インターンシップ」「企画・研究型インターンシップ」等、様々な体験活動のモデルプランを各学校に示し、学校のニーズに応じた体験活動の創意工夫を促す。</li> </ul>	

#### (4)その他の取組

本県では、普通科高校におけるインターンシップを推進するため、単県事業の「インターンシップ推進事業」の中で、企画・研究型インターンシップ（普通科高校を対象とし、企業や大学と連携して共同研究や商品開発を6か月以上の長期にわたって行う）や1次産業インターンシップ（1次産業に関連した事業所において、6次産業を意識した就業体験を長期にわたって継続的に行う）を推進している。また、子供の社会的自立に向け、志を抱かせる教育を推進することにしており、こうしたキャリア教育に関する新たな取組においても、「キャリア教育推進会議」における協議や助言を予定している。

#### 4. 計画・スケジュール

実施時期	実施内容
1月21日	「キャリア教育推進会議」開催 (本年度の事業についての点検・評価、次年度の取組方針を協議)
随時	「やまぐち教育応援団」HPの更新、充実

#### 5. 協議会の成果と課題

##### 【成果】

##### ○「キャリア教育推進会議」の設置・開催

有識者、経済団体、1次産業、行政機関、学校関係者、PTA、県市町教育委員会の各関係者をメンバーとした本会議を開催し、地域社会と連携したキャリア教育推進の観点から、「地域社会と連携した体験活動の推進について」「志をもち、主体的に未来を切り拓く子どもたちの育成に向けて」というテーマで協議を行った。経済団体の関係者からは、「インターンシップや職場体験は、子供たちに地元企業を知ってもらうよい機会なので、積極的に協力したい」という協力的な意見が多数出されたほか、「まず、先生方が地元の企業について、しっかり勉強してほしい」「体験活動の際には、活動の意図を学校と事業所が共有することが大切」など、学校におけるキャリア教育の取組の参考となる意見が出された。会議を通じて、各関係者の相互理解が深まり、キャリア教育推進に向けた協力体制が強化された。

県教委では本年度、志を抱かせる教育や普通科高校におけるインターンシップを重点的に推進し、その結果、「1/2成人式」や「立志式」を実施する小学校・中学校が増加するなど、「志を抱かせる教育」の普及が進んだほか、普通科高校におけるインターンシップについても、5つの普通科高校が「1次産業インターンシップ」に取り組み、地域の1次関連事業所と連携した共同研究や長期のインターンシップを行うなど新しい取組が見られた。来年度は、「キャリア教育推進会議」における協議を踏まえ、地域社会との連携を強化しながら、より効果的な取組を推進していきたい。

##### ○「やまぐち教育応援団」の充実

「やまぐち教育応援団」の活用については、校長会等で各学校に直接活用を呼びかけたほか、県教委が発行するWebニュース「ニューズレター」の中で各学校における実践事例を紹介したり、県内の教員が多く参加した「やまぐち教育フォーラム」で活用を呼びかけるなど、積極的な広報活動を行った結果、本年度は、85%以上の公立学校が「やまぐち教育応援団」を活用した。

##### 【課題】

○「キャリア教育推進会議」は、本県キャリア教育の基本方針や学校と家庭、地域、産業界等との連携方策について協議する場として設置したものであるが、今後は、各学校のキャリア教育の推進に対しても、より具体的な提言が行えるよう協議を深めていく必要がある。

○「やまぐち教育応援団」には、5,000近い事業所が登録しているが、活発に活動を行っている事業所がある一方で、支援の依頼がほとんどない事業所もあるので、Webサイト等における広報活動を工夫していく必要がある。